

地震に対する10の備え オフィス編

オフィスの安全性は、企業の大切な資産である社員の命を守るために欠かせません。地震が発生した際、どれだけの備えがあるかがその後の対応を左右します。

今回は、オフィスでの地震対策としてすぐに実践できる10のポイントをご紹介します。

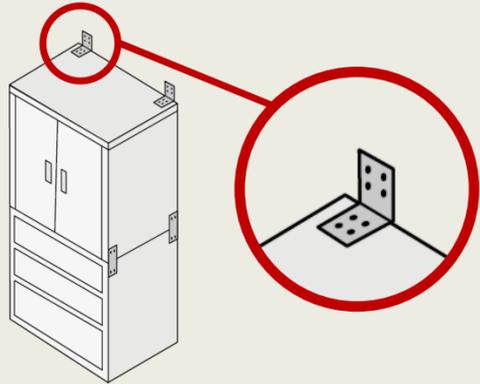


オフィスでの安全対策、万全ですか？

突然の揺れに襲われたとき、机の下に隠れるだけでは十分ではありません。書類が散乱し、家具が倒れ、避難経路が塞がれる可能性もあります。そのような状況でも、社員の安全を確保するために、事前の準備が必要です。

今すぐ実践できる10のポイント

1 家具や機器の転倒・落下防止



キャビネットやパソコンなどの機器をしっかり固定し、揺れによる転倒や落下を防ぎます。

2 避難経路の確保



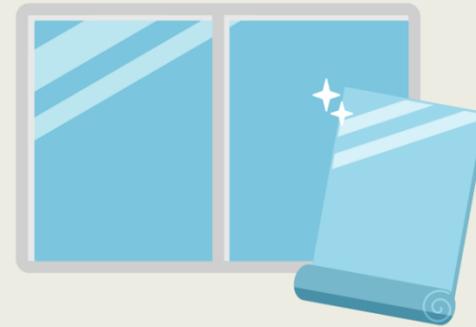
デスクや棚の配置を見直しスムーズに避難できる動線を確認。扉が開かなくなる場合に備えバール等も常備します。

3 防災用品の準備



懐中電灯・ラジオ・救急セット・非常食・水などを備蓄し、すぐに取り出せるよう整理しておきます。

4 ガラス飛散防止対策



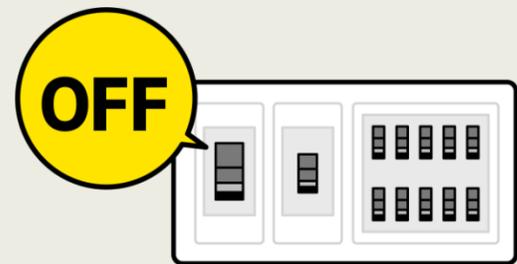
窓ガラスやパーティションには飛散防止フィルムを貼り、破損時の危険を軽減します。

5 消火器の設置と使用方法の確認



地震発生時の火災に備えて消火器の設置場所を確認し、使い方を社員に周知します。

6 感震ブレーカーの設置



電気火災を防ぐために感震ブレーカーを導入し、揺れを感知すると電源が自動で遮断される仕組みを活用します。

7 安否確認手段の確立



災害時の連絡方法（携帯電話、社内SNS、災害用伝言サービスなど）を事前に決めておきます。

8 避難所・帰宅困難時の対応策



オフィス周辺の避難所を確認し、帰宅困難者用の待機スペースや備蓄品を準備します。

9 地域の危険度の把握



自治体が提供するハザードマップを活用し、オフィス周辺の地震リスクや危険な場所を事前に把握しておきます。

10 定期的な防災訓練の実施



避難経路の確認や初期消火訓練・救急対応を実践し、社員全員が防災対策を理解することが重要です。

「社員の命を守るオフィス」をつくるために

当社は阪神淡路大震災を経験し、オフィスビルの倒壊や家具の転倒による被害を目の当たりにしました。

その経験から培ったノウハウを活かし、機能性・安全性・デザイン性を兼ね備えたオフィスづくりをご提案しています。

オフィスの安全対策を考慮した移転やレイアウト変更のご提案はもちろん、

既存オフィス家具の固定や防災対策についてのご相談も承ります。

オフィス移転・レイアウト変更の際はぜひご相談ください。



お問い合わせ先

営業本部：TEL (078) 271-3111 (代)

東京支店：TEL (03) 3218-7660 (代)

姫路支店：TEL (079) 225-1918 (代)

お問い合わせフォーム



社員の命を守るためのオフィス環境づくりをサポートします